

早期体験学習 (Early Exposure)					担当教員
					教授 中田 徹男 准教授 長澤 吉則 他 全教育職員
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
薬学教養	1年次 前期	実習	1.5単位	必修	

【概要】

医療人である薬剤師として身につけるべき「生命の尊厳」、「やさしさ、思いやり」など豊かな人間性の涵養（かんよう）と、「問題発見・解決能力」の重要性を認識してもらおうと思います。これらを通じて、個人個人の「医療人としての薬剤師の欲び、理想像」を皆さんの大きな真っ白なキャンバスに描き、これから6年間、人にやさしい、信頼される薬剤師を目指して研鑽を積む第一歩を踏み出すきっかけになることを全教員が期待し、応援します。

【授業の一般目標】

薬学生としてこれから6年間の学習に対するモチベーションを高めるために、救命応急手当（AEDを含む）、ハンディキャップ体験、ようこそ先輩（先輩の経験談）、薬害被害者の生の声、病院・薬局見学、企業・研究室見学などにより、将来の医療人としての自覚を高めるとともに、「生命の尊厳」、「やさしさ」など豊かな人間性の涵養と、将来求められる「問題発見・解決能力」の重要性を肌で感じる。スモールグループディスカッション（SGD）、プロダクト作成とポスター形式での成果発表会を通して人の考えをじっくり聞き、自分の思いを人に伝える方法を考える。とにかく、驚き、楽しむこと。

【準備学習(予習・復習)】

病院・薬局・企業見学の前にスモールグループディスカッションを行い、見学の目的について討論する。「薬害」講演会の後にはレポート提出を行い、担当教員による添削を含め、文書作成能力の向上のための基礎を学ぶ。その他、課題ごとのレポートの提出も指示されるので、注意すること。

見学内容を中心に、見たこと、感じたことをグループごとにポスター発表するので、それを意識して見学に望むこと。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	全体ガイダンス	全教員分担	薬学部の学生として、学習に対するモチベーションを高める。	
2	「薬害根絶」のために薬害被害から学ぶ	全教員分担	1. 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。 2. 薬害根絶のために、薬害被害者の生の声から、薬剤師は何かができるのか、何を期待されているのかを学び、自分の意見をまとめる。	B-(1)-④-3 B-(1)-⑥-1
3	救命応急手当（*70名） （京都市消防局から普通救命講習終了証交付） （*;No.3～5の内の1つを選択する）	全教員分担	人の命の尊さを理解するために救命応急手当を実践する。 1. 救命のリレー・応急手当の重要性を理解する。 2. 心室細動およびAED（自動体外式除細動器）の機能を理解する。 3. 基本的心肺蘇生法（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）を習得する。 4. AEDの使用法を習得する。 5. 気道異物の除去法を習得する。 6. 上記より、「生命の尊厳」について考える。	A-(1)-①-5 A-(1)-②-1
4	ハンディキャップ体験（*40名）	全教員分担	将来、患者さんの悩みや苦しみを理解できる薬剤師となるために、疑似体験を通じ医療人としての「やさしさ、思いやり」について考える。 1. アイマスクにより視覚が不自由な方の疑似体験をし、声掛け・介助法を習得する。 2. 車椅子により歩行の不自由な方の疑似体験をし、介助法などを習得する。 3. バリアフリーについて概説できる。	A-(3)-③-5 B-(2)-4
5	ようこそ先輩（*280名）	全教員分担	薬学部の学生として、これから体験する事柄などを、先輩の話から学ぶ。	☆

6	病院・薬局見学	全教員分 担	病院薬剤師・開局薬剤師の業務を見聞し、 1. 薬の安全性・有効性の確保、 2. QOL(Quality of Life)の向上に如何に寄与し、また寄与し なければいけないかについて自分の意見をまとめる。	B-(2)-1,2
7	企業見学	全教員分 担	製薬企業、研究所を見学し、企業等の仕事内容を学ぶ。 事前にSGD（スモールグループディスカッション）を行う。	B-(2)-3
8	学内研究室見学	全教員分 担	本学の研究室を見学し、如何に問題点を発見し、それを解決する 方向で研究を進めているかについて自分の意見をまとめる。	A-(2)-⑤-2
9	プロダクト作成	全教員分 担	少人数グループ単位で、早期体験項目の中からテーマを選び、感 じたこと、学んだことをディスカッションし、自分たちの意見や 考えを模造紙等にまとめる。	A-(1)-①-5 B-(2)-1,2,3
10	プロダクト展示、意見交換 会	全教員分 担	作成したプロダクトをポスター展示し、全員で色々な感じ方、考 え方について意見を交わす。	A-(1)-①-5 B-(2)-1,2,3

【成績評価方法・基準】

出席（必須）、積極性、レポート（MoodleによるWord書類での提出等）での考察などを総合的に判断する。

【備考】(担当教員に対する質問等の連絡方法)

質問は各担当教員（薬害被害者講演：津島准教授、救命応急手当：深田教授、ハンディキャップ体験：長澤吉則准教授、ようこそ先輩：長澤一樹教授、病院・薬局見学：高山教授、企業見学：西口教授・矢野教授、学内研究室見学：鈴木教授、プロダクト作成・展示発表：山下教授・橋詰教授）または南校地S棟1階南の中田教授室まで。